

令和5年度 大分教育事務所 重点方針

子どもの力と意欲の向上に向けた組織的な取組の推進

授業改善の徹底

- 楽しくて、力の付く授業
- ◇授業構想力
- ◇授業展開力
- ◇子ども主体の授業

いじめ・不登校対策の推進

- ◇安全・安心な「居場所づくり」
- ◇SC, SSW等との連携
- ◇対話（日常的なつながり）

深い子ども理解
アセスメント ファシリテーション

特別支援教育の充実

- 通常の学級における「個別の指導計画」
- ◇活用 ⇄ 共有 ⇄ 連携

体力向上の推進

- ◇1校1実践の充実
- ◇運動好きな子どもたちの育成

学校マネジメントの深化

- ◇「熟議」による育成を目指す資質・能力の明確化
- ◇学校・家庭・地域の役割分担の明確化や適正化の推進
- ◇ICTの利点を活用した学校マネジメントの推進・更なる深化

市教育委員会とのベストミックス

令和5年度 大分教育事務所 重点方針に係る事例集

本事例集は、「令和5年度 大分教育事務所 重点方針」の項目ごとに、管内で見られた好事例を紹介をしています。ぜひ、それぞれの学校や教育委員会で活用していただきたいと思います。

学校マネジメントの深化（カリキュラム・マネジメント）

①「熟議」による育成を目指す資質・能力の明確化 【観点I, 観点IV】

- 学校・家庭・地域が当事者意識を高めつつ、熟議することで「育成を目指す資質・能力」をより明確にしていきましょう。
- 「育成を目指す資質・能力」をもとに検証・改善を進め、教育課程の見直しにつなげましょう。

実践例：「熟議」による育成を目指す資質・能力の明確化の実践（由布市立東庄内小学校）

令和3年度「東っ子だより」12月号裏面

東庄内が目指す“子ども像”

日々、変化する社会を生きる子ども達。今後、“地域としてどのような子どもを育てていくのか”という「東庄内が目指す“子ども像”」を策定する学校運営協議会をもちました。保護者代表の平松会長はPTA役員の、学校代表である私達は本校教職員の“こんな子どもになってほしい”という意見を持ち寄り、地域の代表の方々の願いとともに活発な議論を交わすことができました。その結果、

- 夢をもっているなかに挑戦する子ども
- 進んで人と関わりをもとうとする子ども
- 人や自然に優しく思いやりのある子ども

12班に分かれての話し合い 代表者による発表！

全体協議

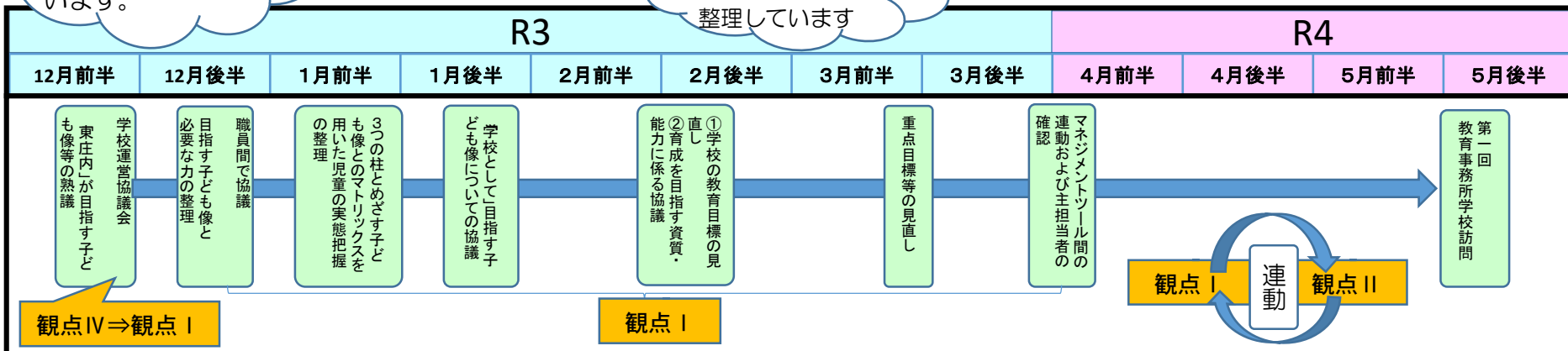
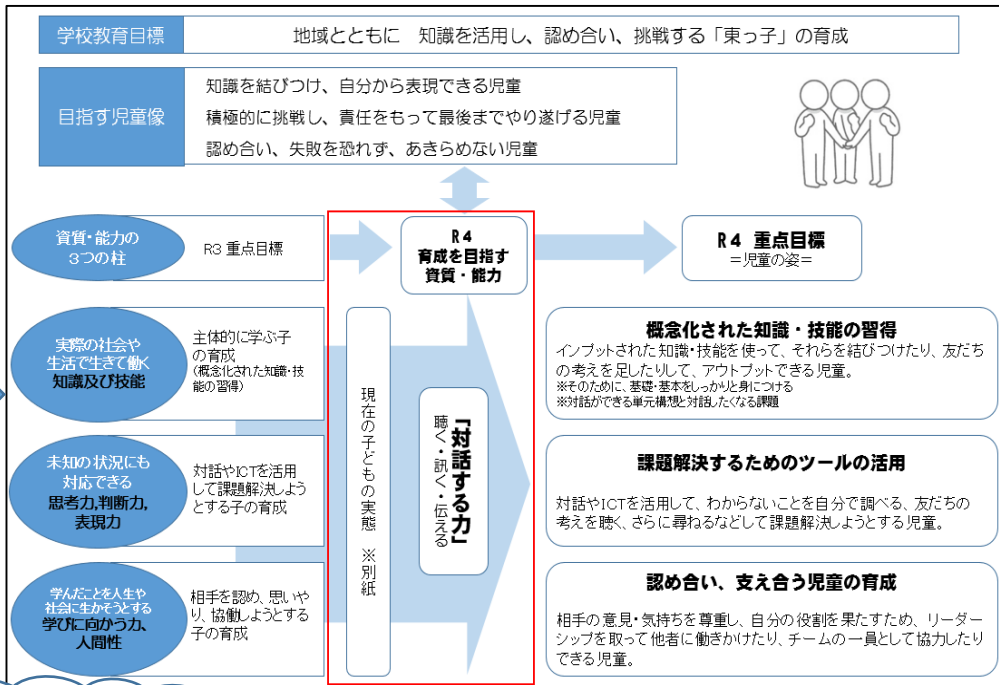
| 目指す子ども像 | 夢をもっているなかに挑戦する子ども | 進んで人と関わりをもとうとする子ども | 人や自然に優しく思いやりのある子ども |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ子の育成 未知の状況にも対応できる 学んだことを人生や社会に生かす力 | <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ子の育成 未知の状況にも対応できる 学んだことを人生や社会に生かす力 | <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ子の育成 未知の状況にも対応できる 学んだことを人生や社会に生かす力 | <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ子の育成 未知の状況にも対応できる 学んだことを人生や社会に生かす力 |

という、3つの目指す“子ども像”ができました。その後、「そのような子どもになるためには、どんな力が必要か」についても意見を出し合いました。時間に限りがありましたので、会で出された必要な力に、学校でさらに検討し付け加えることをご承認いただき、開会しました。

後日、教職員の意見を加え、左表のようにまとまりました。その中で、3つの像に共通する方、「自分で考える力」「コミュニケーション力（聞く力、話す力）」がこれからのキーワードになっていくと思います。

学校運営協議会で、東庄内が「目指す子ども像」を熟議しています。

熟議の内容を踏まえて、必要な力を職員間で整理しています



学校マネジメントの深化（カリキュラム・マネジメント）

②学校・家庭・地域の役割分担の明確化や適正化の推進 【観点Ⅳ】

- 学校・家庭・地域がビジョンや課題等を共有し、適切かつ明確な役割分担のもと、三者が教育の担い手となり、地域のよさや創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていきましょう。

実践例：目標協働達成「地域とともにある学校」（臼杵市立川登小学校）

学校を核とした
地域づくりの推進

○2022ひまわりフェスタの実践を通して、「自立した地域社会づくり」に参画しています。
○基盤となる資質・能力「豊かな表現力」の育成に向けて、地域の方との目標協働達成を実践しています。

《総合的な学習の時間》（4, 5年生）
「川登のことをもっと知ろう」

5月

ひまわり畑の下見



6月

プレゼン大会



7月



植ええ準備



植ええ



草取り

8月



会場準備



9月



顔出し看板



おみくじコーナー



来客者へのガイド活動



駐車場係への協力
（地域振興協議会）

10月

ひまわりフェスタ
当日（10/8）

《地域振興協議会、公民館との連携》

サポート
①

公民館の担当者
⇒地域振興協議会の方紹介（つなぎ）

サポート
②

地域振興協議会
「ひまわり畑」の紹介⇒下見

サポート
③

地域振興協議会、公民館
⇒プレゼン大会への参加、賛同
⇒子どもたちへ計画実行の依頼

サポート
④

地域振興協議会
⇒ひまわりのお世話の
アドバイス

サポート
⑤

地域振興協議会
⇒会場準備の
支援

《学校運営協議会》

○豊かな表現力（育成を目指す資質・能力）育むための役割等についての熟議【3部会に分かれて】



○「ひまわりフェスタ」の年間活動計画への位置づけ

○子どもたちの学びの姿の共有
⇒子どもたちの発表を聞き、感想やアドバイスを伝える。



○「ひまわりフェスタ」のまとめ
⇒「大変素晴らしい取組。ぜひ今後も継続してほしい」。

川登小学校では、その他にも風連鍾乳洞ガイド、川登和紙づくり、二孝女学習などを通して、学校・家庭・地域の三者が教育の担い手となり、特色ある学校づくりに取り組んでいます。詳細は、川登小のWebページにてご覧ください。



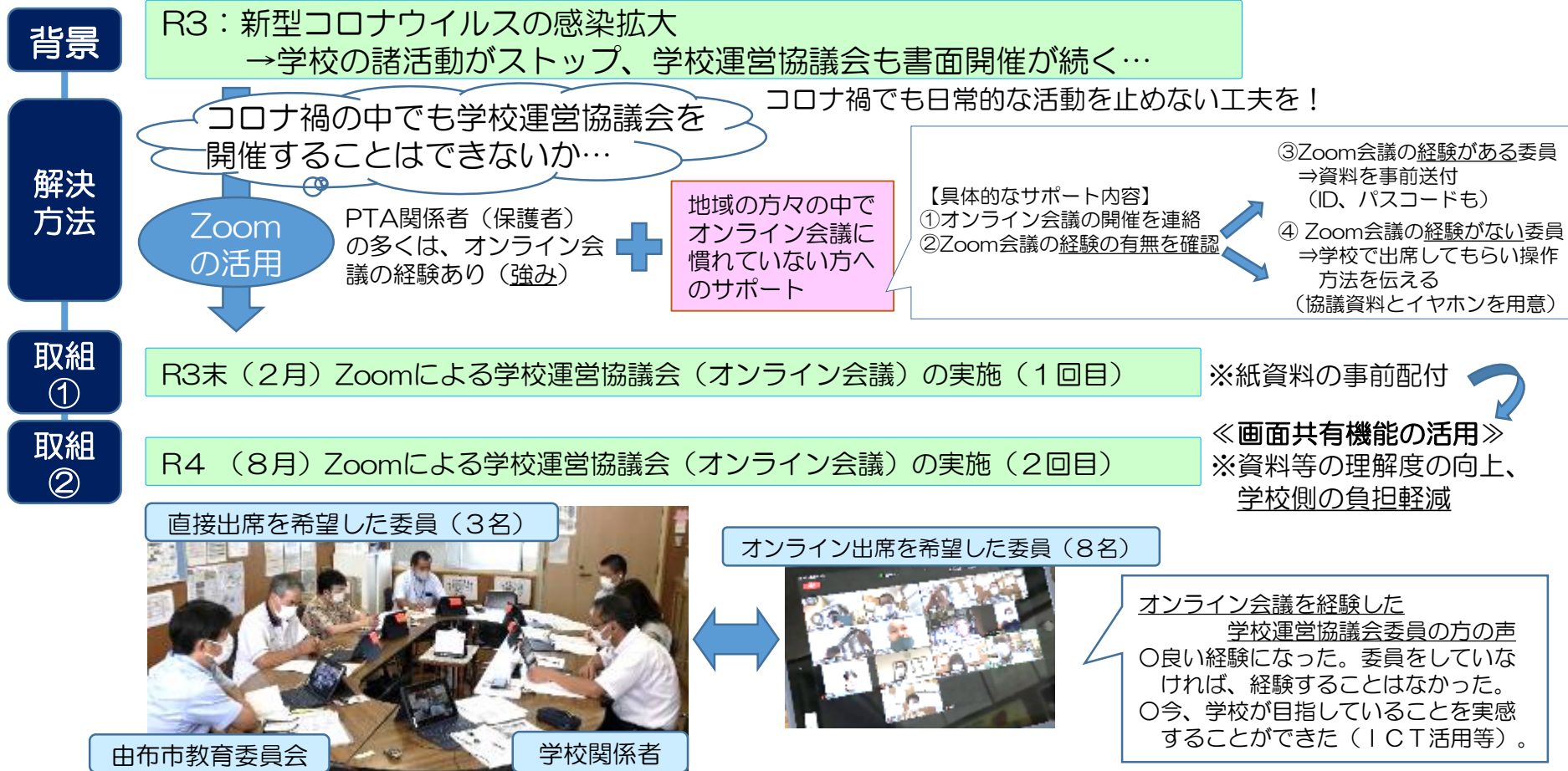
Webページの
QRコード

学校マネジメントの深化（カリキュラム・マネジメント）

③ICTの利点を活用した学校マネジメントの推進・更なる深化【全体】

- 「芯の通った学校組織」第3ステージ（R2～R4）で得られた新たな経験や知見（指導・支援に係るICTの積極的な導入等）を新たな共有知としながら、学校マネジメントをさらに深化させていきましょう。

実践例：ICT活用による学校・家庭・地域の協働の実践（由布市立由布川小学校）



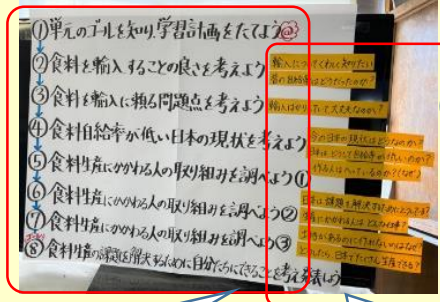
- コロナ禍でも学校運営協議会を継続して開催する可能性を探り、Zoomを活用することで、ハイブリッドでの対面開催を実現することができました。
- オンライン会議等を進めるICT活用のスキルを、自校だけでなく他の学校の諸活動（PTA常任委員会、学習活動のライブ配信等）の活性化にもつなげています。

1 授業改善の徹底（「教師主体の授業」→「子ども主体の授業」へ）

①単元を通した指導の充実（「付けたい力」を明確にした単元構想）

- 単元を通して付けたい力を明確にし、それらを身に付けるさせために適切な指導計画を構想しましょう。

実践例：「単元を見通した付けたい力の明確化」（大分市立宗方小学校）



1単位時間ごとの「めあて」

1単位時間ごとの「課題」

○児童と単元のゴールを共有し、その達成に向けて学習計画を組み立てています。
○板書もとても構造的で児童にとってわかりやすいです。
5年生 社会科



★Point①：
子ども一人一人の学習を適切に評価する。
★keyword：
指導と評価の一体化

- 授業では、本時の「ねらい」と「評価規準」との整合性を図るとともに、「C 努力を要する状況」にある子どもには、「B おおむね満足できる状況」に引き上げるための手立てを講じましょう。

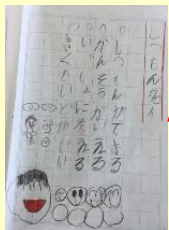
実践例：「ねらう『振り返り』を具体的に描き、評価規準との整合性を図る」（大分市立小佐井小学校）

| | | | | | | | |
|---|---|--|----|-----------------|-----|---|----------|
| 2 | 3 | | 国語 | かたかなで書くことば | 2/2 | 片仮名で書く言葉の種類について、片仮名を使った文を書いたり片仮名の分類をしたりすることにより、使い方を理解することができるようにする。 くねらう振り返り。 ○○さんは絵の中のかたかな以外も使って文を作っていた。○○さんの考えを聞いて、絵の中には、まだまだかたかなで書く言葉が隠れていることがわかった。主語と述語とかたかなの言葉を上手に繋いで文を作ることができた。 | 知識・技能 |
| 3 | 1 | | 国語 | 町の様子を説明する漢字 | 1/1 | 町の様子を読み解く文章の書き方について、絵を見て想像を膨らませ、示されている漢字を参考にしたりする活動を通して、二年生までの漢字を覚えて漢字を書きこなせるようになる。 くねらう振り返り。 ○○さんの△△のところは上手に書けていた。△△のように書けばよいことが分かった。日記にも使うようにしたい。 | 思考・判断・表現 |
| 3 | 2 | | 道徳 | 生きたいいざ（礼儀・思いやり） | 1/1 | 「生きたいいざ」の物語を読み、女王の行為には相手に思う気持ちが込められていたことに気づき、日常の行動の中でも相手を思いやって接しようとする道徳的行動を養う。 くねらう振り返り。 これから、私も女王のようにあいてを思って、心のこもったあいさつをしたい。 | 道徳的心情 |

全ての学級において「ねらう『振り返り』」を具体的に描いて、評価規準との整合性を図りつつ、その後の学習指導の改善につなげています。

- 単元や授業の「振り返り」は、単にできた・できなかったに留まるのではなく、既習事項や経験と関連付けたり、今後の学びへつなげたりするなど、「振り返り」の充実を図りましょう。

実践例：「振り返りを授業改善に活かす」（由布市立挾間小学校）

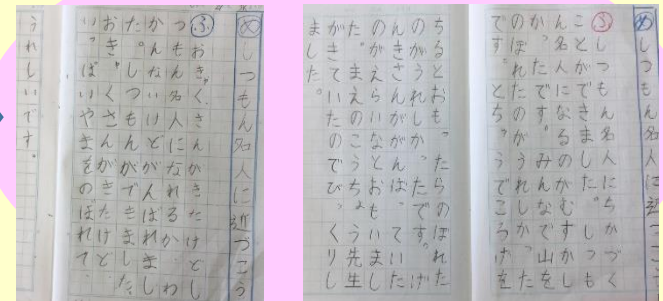


A児のノート記述
「前時」の振り返り



本時の導入時に「A児の振り返り」を用いながら、児童の学習活動に対する意識をなめらかにつないでいきます。

「本時」の振り返りの一部



1 授業改善の徹底（「教師主体の授業」→「子ども主体の授業」へ）

- ② 1 単位時間の指導の充実（「教科の特性を踏まえ、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業」）
- どの教科も同じような型で授業を行なうのではなく、教科の本質・面白さを大切にした授業を展開しましょう。
 - 「課題」を提示する際は、既習事項とのズレ、疑問や困りなどから「問い」を設定し、その「問い」を追究していく過程を重視した授業を行いましょう。
 - ICT（1人1台端末）を効果的に活用し、資質・能力を育成する授業を目指しましょう。

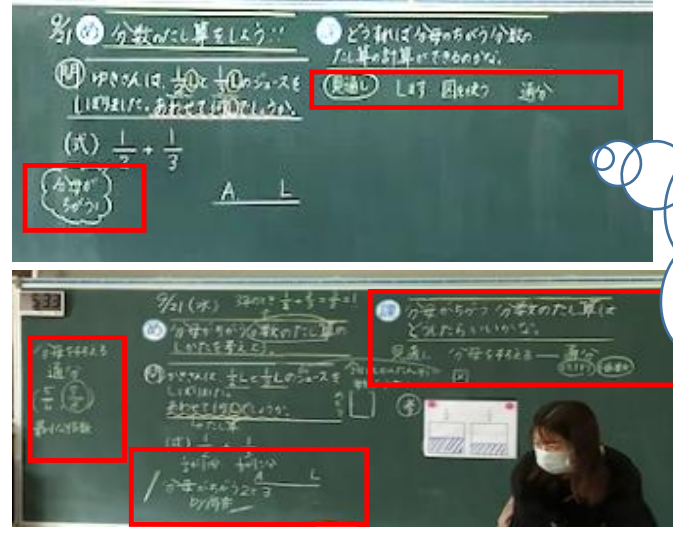
★Point①：
子どもの「問い」を立てる力を育てる。
★keyword：
協働して解決できる高いハードルを設定

実践例：必然性のある課題・明確な課題設定（津久見市立千怒小学校）※見通しのステップ

- (1) 現状の把握→既習から未習へつなぐ
- 問題に対して、困りの対象を明確にし、
「できないことは何か、はっきりしないことは何か」を焦点化していく
- (2) 原因の特定→なぜできないのかを子どもに問う ※課題の発見
- 既習を活かしつつ、「なぜできないのか」「どんな場合だったらできていたのか」
- (3) 課題解決の手段の決定→どうすればできるか問う ※課題を自覚
- 「知っていることやできることが使えないか」を考え、「こうすればできそうだな」という意識（見通し）を持ち、自分なりの課題解決の手段を決めて、課題追究を始めさせる。

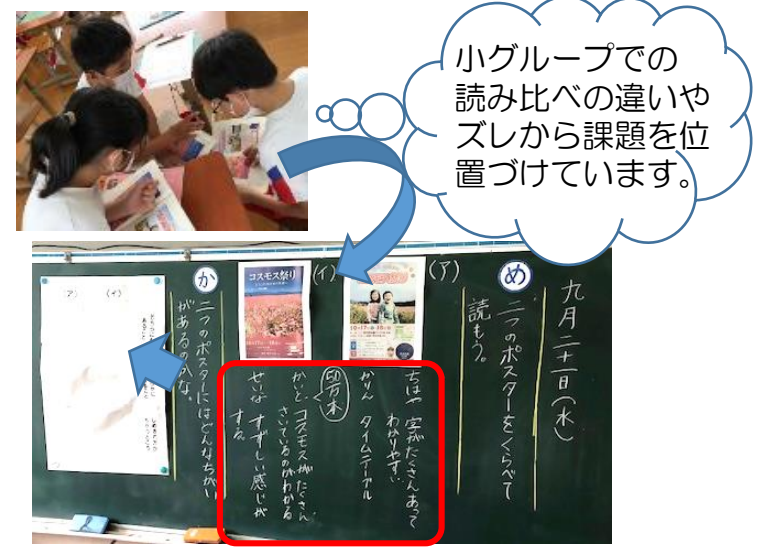
★Point②：
教員のファシリテーターとしての役割。
★keyword：
「ひきだす・つなぐ・もどす・ひろげる」

5 年生算数（習熟度別指導）「異分母のたし算」



児童の声から「めあて」や「課題」を設定しつつ、解決への見通しを明確に持たせるなど「子どもと共に創る授業」を実践しています。

4 年生国語「ポスターを読み比べよう」



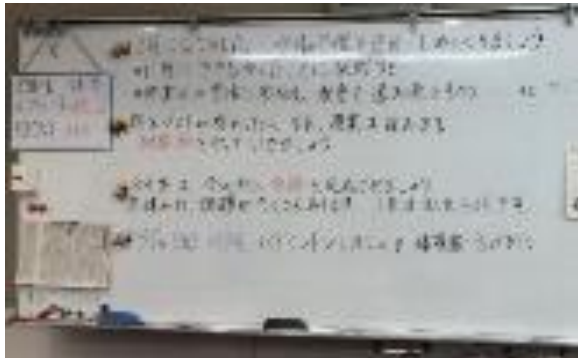
小グループでの読み比べの違いやズレから課題を位置づけています。

2 いじめ・不登校対策等の推進

①子どもたちの安全・安心な「居場所づくり」や「絆づくり」を支える取組の推進

- 子どもたちが「大切にされている」と感じ、互いの個性や多様性を認め合い安全かつ安心して授業や学校生活を送れる風土をつくりましょう。
 - 教職員の支援のもと、子どもたちが自分たちで考え、対話し創造できる学校・学級をつくりましょう。
 - 必要に応じて、SC・SSW・SL・児童相談所等と連携し、学校を基盤としたチームによる連携・協働の実現を目指しましょう。
- ※「生徒指導提要（R4.12文科省）」、「教科の指導と生徒指導の一体化」「チーム学校として機能する学校組織」より

実践例：安全・安心な「居場所づくり」に向けたサポートルームの活用と校内支援体制（大分市立大東中学校）



相談室での生徒の様子

相談室前面のホワイトボード



サポートルームの席
(基本的に固定)

※スクールライフサポーター【市独自の配置】

- (1) 配置校 (R3 : 7校 R4 : 9校)
- (2) 支援内容
 - ①学習支援
 - ②ソーシャルスキルトレーニング
 - ③教育相談 (必要に応じて、家庭訪問も実施)

《大東中学校での校内支援体制》

- ◇スクールライフサポーターと担当教員を中心とした隙間のない指導・支援
- ◇SC、SSWとの連携による本人及び保護者との相談体制の充実
- ◇本人及び保護者と対象とした進路説明会の実施(年3～4回程度)

3 体力向上の推進

①体力向上プランに基づく1校1実践の推進

- 体力向上プランの重点目標や取組内容等を全教職員で共通理解し、1校1実践を学校教育活動全体で組織的、計画的に進め、学校の特色や課題に応じた実践を組織的に取り組みましょう。

実践例：「1校1実践の活性化と年間を通じた意識づけ」の取組(臼杵市立臼杵南小学校)



「体力アップ週間」を
定めた取組
児童会と取組について話し合い
「体力アップ週間」の内容を考えさせることで、運動への愛好度と併せて、子どもたちの自主性も同時に育てています。

4 特別支援教育の充実

①通常の学級における「個別の指導計画」の活用・共有・連携

- 子ども一人ひとりの困りに寄り添い、適切な指導や支援を行なうためのツールとして「個別の指導計画」を活用しましょう。
- 「個別の指導計画」をもとに、目標や指導内容・指導方法等について情報共有しながら見直し、校内での連携を図り、組織的な支援につなげていきましょう。
- 必要に応じて、個別の指導計画推進教員・巡回相談を活用し、指導や支援の充実を図りましょう。

実践例：「個別の指導計画」の活用・共有・連携の取組(臼杵市立野津小学校)



臼杵市においては、本年度、通常の学級における個別の指導計画の様式等をアップグレードしています。

野津小学校では、個別の指導計画推進教員の作成手順の説明をもとに、目標や指導内容・指導方法等について情報共有しながら、新しい様式で個別の指導計画を作成していました。